

平成 28 年度豊岡市民健康大学講座_今堀

脳卒中のカテーテル治療

公立豊岡病院脳神経外科 今堀太一郎

脳卒中は、脳血管障害のうち急激に発症したもののことであるが、わが国の死因や介護要因に大きな割合を占める社会的意義の極めて大きな疾患である。脳卒中は、血管が詰まる脳梗塞と、血管が破れる脳出血に大きく二分される。脳梗塞は脳卒中の約 7 割を占め、さらにラクナ梗塞、アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓症に分類される。特に心原性塞栓症は不整脈などによる血栓により脳血管が急激に詰まる脳梗塞であり、突然発症して重症となることが多い。大きな脳血管が急激に詰まった場合、早期に血管を再開通させると脳梗塞を最小限に抑えることができ、時に劇的な回復をみる。再開通させる治療は従来血栓溶解剤の点滴が行われてきたが、発症からの時間的制限が短く、また再開通率も満足できるものではなかった。近年、血管の中から行う治療であるカテーテル治療の進歩はめざましく、海外での大規模臨床試験によりカテーテル治療による再開通療法の有効性が示され、2014 年にはわが国でも優れた再開通率をもつカテーテル治療機器であるステント型血栓回収機器が認可された。公立豊岡病院においても、2015 年 4 月にカテーテル治療専門医が赴任し、最新のカテーテル治療機器による脳梗塞治療が可能となった。今回は、このカテーテル治療を中心とした脳卒中治療について講演する。